

(2)その他,特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果,世界的位置付け(ISI citation など)など。* ISI データのない場合は,可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	18年度の取組と成果、世界的位置づけ	特に顕著な進展がある場合に記入
<p>特筆すべき教育活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大大学院や卒業生による国際学会発表数: 151件 2. 大大学院や卒業生による論文報告: 119件 3. 日本学術振興会特別研究員採択実績: 合計 23件 DC1 14件 DC2 4件 PD 3件 SPD 0件 他機関転出PD 1件 他機関転出SPD 1件 新規採択率は DC1が10%、DC2は13.6%、PDが8.3%であり、全国平均の採択率とほぼ同様である。 しかし、平成19年度の採択率は約25%と全国平均を上まわっている優れた結果となっており、平成19年度の種が活発であったことを示している。 4. 若手奨励賞(日本農芸化学会東北支部) 1件 優秀発表賞(日本畜産学会 日本獣医学会 日本畜産学会 東北畜産学会 AAAP Best Presentation Award) 6件 ポスター賞(国際学会 1件 国内学会 8件) 研究奨励基金(ハート大賞優秀賞) 1件 世界寄生虫学会ワークショップ演者選出 1件 ASAS-ASAS Joint Meeting Graduate Student Competition finalist 1件 5. 3年次学生による食用作物の栽培実習(TVで取り上げられた) 6. ヒューマン・セキュリティプログラムによるダブル・ディグリープログラムの推進(国際協力銀行の支援) 7. 中国 河南農業大学客員教授 1件 8. 大学院生の特許出願(共同出願者) 2件 9. 高校生・大学生対象の著書「アニマルテクノロジーの未来」の売れ行きがバイオテクノロジー分野で1位 	
<p>特筆すべき研究活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際会議の招待講演: 13件 2. 国際会議主催 イネ研究 1件 松島国際シンポジウム 1件 3. 特許出願 8件 4. 受賞: OLA懇話会優秀発表者賞 1件 日本環境共生学会論文賞 1件 三島海雲記念財団学術奨励賞 1件 畜産技術研究奨励賞 1件 日本土壌肥料学会ポスター賞 1件 日本家禽学会学会賞 1件 後藤義典学術奨励賞 1件 農芸化学会企画賞 1件 三島海雲賞 1件 AAAP Animal Science Award 2006 1件 	<p>19年度 招待講演論文 1件 (J Exp Bot, Special Issue 2007)</p>

	<p>5. 特筆すべき論文発表(IF=5以上) Proc. Natl. Acad. Sci. USA (IF=9.64), Autophagy (IF=6.71), Oncogene (IF=6.58), J. Biol. Chem. (IF=5.81), Cell Microbiol. (IF=5.07)</p> <p>その他 それぞれの専門分野で、国際的に評価の高い論文発表が多数なされている。代表的な学術雑誌を以下に示す。</p> <p>J. Mol. Cell. Cardiol. (IF=4.86), Mol. Immun. (IF=4.77), Organic Lett. (IF=4.66), Environ. Microbiol. (IF=4.63), J. Lipid Res. (IF=4.36), New Phytologist (IF=4.25), Genetics (IF=4.24), Plant Cell Environ. (IF=4.14), J. Nutr. (IF=4.01), Applied Phys. Lett. (IF=3.98), J. Org. Chem. (IF=3.79), Glycobiology (IF=3.67), Optics Lett. (IF=3.60), Int. J. Develop. Biol. (IF=3.58), Plant Mol. Biol. (IF=3.57), Appl. Environ. Microbiol. (IF=3.53), Biol. Reproduction (IF=3.50), Develop. Comparat. Immun. (IF=3.40), FEBS Lett. (IF=3.37), Plant Cell Physiol. (IF=3.32), BBA (IF=3.12), Eur. J. Cell Biol. (IF=3.04), Aquat. Toxicol. (IF=2.97), Mol. Plant Pathol. (IF=2.97), Planta (IF=2.96), Tetrahedron (IF=2.82), Aquaculture (IF=2.73), Theor. Appl. Genet. (IF=2.72), Cell Tissue Res. (IF=2.58), Animal Cognition (IF=2.54), Gen. Compar. Endocrinol. (IF=2.49), Geoderma (IF=2.12), J. Exp. Marine Biol. Ecol. (IF=1.92)</p>	
<p>特筆すべき 社会貢献活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本学術振興会学術システム研究センターの主任研究員を兼務する教員を輩出: 1件 2. 国際連合アジア太平洋経済社会委員会・貧困撲滅研究センター共同研究プロジェクトのアドバイザーをつとめる教員を輩出: 1件 3. International Congress of Reproduction Biology を日本代表として設立し、第1回大会を2008年ハワイ開催に尽力。 4. 文部科学省「人・自然・地球共生プロジェクト」「一般・産業廃棄物・バイオマスの複合処理・再資源化プロジェクト」H18年度合同成果報告会議評議員 1件 5. 独立行政法人 理化学研究所植物学研究中心 客員主管研究員 1件 6. Belgium Grand Proposal Referee 1件 7. 日本畜産環境学会 理事長 1件 8. 日本受胎着床学会 理事長 1件 9. 日本栄養・食糧学会 副会長 1件 10. 畜産技術協会「アニマルウェルフェアガイドライン」委員 1件 11. 日本生物工学会北日本支部シンポジウム企画運営 1件 12. 小学生用の教科書を執筆: 1件 13. 出前授業: 6件 14. 宮城一女高研究アドバイザー 1件 15. 開放講座「牧場の科学」、「コンポストの科学」 2件 16. フィールドセンター視察・見学(南光台東中1年生など) 12件 17. 東北大学サイエンスカフェで発酵生ヨーグルトの話題提供 及び40件をこえる企業・一般市民へのヨーグルトに関する講演 18. 東北大学創立100周年記念行事で「友愛と信頼 親子の絆を育む遺言 オキシトシンの謎」の講演 19. 新聞・テレビ等の報道: 37件 <ul style="list-style-type: none"> 小学校にイネ「愛子2号」の苗提供(河内新聞 NHK) 驚きの透視パワー 不思議の波 テラヘルツ(NHK)教育テレビ「サイエンスZERO」取材 解糖書(NHK総合) 社会行動ホルモン(朝日新聞宮城版) プリズム連載(河内新聞)など 	

